

紹介

NYSORAの活動とオススメ活用法

『Hadzic's 超音波ガイド下末梢神経ブロックと解剖』および『NYSORA 神経ブロックマニュアル』に続き、2025年9月に『NYSORA 困難静脈路確保マニュアル』を私と村田 寛明 先生（長崎大学大学院 麻酔集中治療医学）というおなじみのチームで翻訳出版した。幸いなことに、麻酔科医はもちろん、他科の医師や看護師の方々からも好意的なフィードバックをいただくことができた。本稿では、NYSORAの現在の活動と新刊の概要について紹介したい。

■■■■■ NYSORAとは

NYSORA (The New York School of Regional Anesthesia) は、区域麻酔および疼痛管理に関する教育・研究・臨床支援を目的として1994年に立ち上げられた国際的教育団体である。設立者であるAdmir Hadzic先生がニューヨークに在住していた頃は米国を拠点としていたが、現在はHadzic先生の移住に伴いベルギーに本拠を置いている。

NYSORAの当初の活動は、ワークショップの開催や書籍編集、ウェブサイトでの情報提供が中心であったが、新型コロナウイルス感染症のパンデミック以降は、YouTube動画の公開やスマートフォン向けアプリの開発など、活動の幅を広げている。

私が超音波ガイド下末梢神経ブロックを始めた2006年当時、日本語のリソースはほぼなく、NYSORAのホームページおよびHadzic先生編集の『Hadzic's Textbook of Regional Anesthesia』は貴重な情報源であった。さらにニューヨークで開催されていたNYSORAの年次集会にたびたび参加し、海外でのインストラクター経験や最新知見の習得の機会を得てきた。その縁もあり、現在はNYSORAのEducational Advisory Boardの一員として書籍の編集に参加している。

■■■■■ NYSOTAのYouTube動画

今回、『NYSORA Mastering Difficult IV Access: A Practical Manual』の翻訳を行うに至ったきっかけは、NYSORAのYouTube動画であった。

私はコロナ禍の2021年の一時期、予定手術患者のPCR用検体採取を毎日行っていた。検体提出後、遊んでいたように見えるので、結果が出るまでの隔離時間に動画を視聴するのが習慣化していた。そこでたまたま視聴したのが、NYSORAの困難静脈路確保を解説する動画 (https://youtu.be/7IGE4OH0uJw?si=wumrvw1csx7og-OW) であった (同時期に視た動画から『がっくんといっしょエコー解剖のひろば』につながった)。この動画は、整形外科領域で見慣れたエスマルヒを通常とは逆の上肢の中枢側から末梢に血液を送り、末梢静脈を拡張させて穿刺を可能にするという手技を紹介している。原著には、この動画の反響が大きく、原著発行のきっかけになったと書かれている。このようなテクニックは、日本の臨床医にも大いに役立つと確信して、村田先生をお誘いした。

NYSORAの公式YouTubeチャンネル (NYSORA - Education) は、2025年11月時点で登録者22万人を超え、神経ブロックのみならず気道管理、静脈路確保など麻酔科医のための多岐にわたるコンテンツを提供している。YouTubeは自動翻訳機能を使って日本語で視聴できるが、Hadzic先生の英語は明瞭で聞き取りやすいので、可能であれば原語での視聴を勧める。それが、世界を広げる一歩となるだろう。

■■■■■ ホームページとアプリ

NYSORAの主要な活動は公式ウェブサイト (https://www.nysora.com/) で確認できる。なかでも「News」には、主要医学雑誌に掲載された最新知見が簡潔にまとめられており、きわめて有用である。これらの内容は後述するPodcastでも紹介されるが、文章で確認したい読者には特に役立つだろう。

また、Anesthesia Assistant (図1)、Nerve Blocks, Pain Medicine Assistant, IV Access など、複数のアプリが提供されている。全機能を利用するには年額15,000円程度の費用が必要だが、一部機能は無料で使用可能である。興味があるものから試してみるとよいだろう。

■■■■■ Podcast

NYSORAのリソースの中で私が特に推奨したいのがPodcastである (図2)。「NYSORA Anesthesia Updates」は、毎週1本、10分以内の短いエピソードで構成され、各種雑誌に掲載された最新論文をHadzic先生がわかりやすく解説してくれる。私自身、通勤時の車内で聴いているが、最新知識の効率的習得に大いに役立っている。限られた時間で最新知見に触れられるというコンセプトは、忙しい日本の麻酔科医にも非常に適していると思う。

■■■■■ 書籍

2024年の日本麻酔科学会では、Hadzic先生による講演が動画として提供され、そこでは「教科書は完成に時間がかかりすぎ、時代に適さなくなっている」といった趣旨の発言をされていた。しかし、そうはいいながら、書籍も精力的に刊行されている。

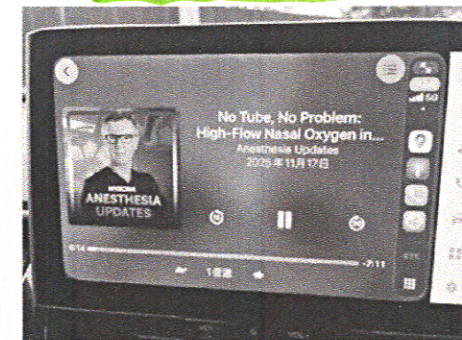
最新の教科書としては『Ultrasound-Guided Interventional



図1 Anesthesia Assistant アプリ

a: トップページ画面。無料でも「Anesthesia Manual」と「Anesthesia Updates」の一部は閲覧できる。
b: Anesthesia Updatesの画面。各種雑誌に掲載された最新論文の解説。項目はPodcastと同一

図2 Apple CarPlayを使用して、通勤車内でPodcastを視聴



Pain Procedures Manual』が挙げられる。現時点で日本語訳の予定はないが、希望があればぜひ編集部に見解を寄せいただきたい。また、Podcast「Anesthesia Updates」は書籍としてもまとめられている。非常に有用ではあるが毎週新しい内容が追加されるため、日本語訳のタイミングが合わないかと判断し、翻訳は断念した。英語版は1項目が短く読みやすいため、ご興味あれば原書を読んでみていただきたい。紙版はいわゆるペーパーバックで昔の電話帳みたいなのでKindle版が読みやすいのではないだろうか。小児麻酔分野のトピックをまとめた『Pediatric Anesthesia Updates』はKindle Unlimitedの対象となっており、医学書の在り方も変化しつつあると感じさせられる。

■■■■■ 『NYSORA 困難静脈路確保マニュアル』

最後に、本書の内容について触れたい。本書を翻訳するに至った動機は、末梢静脈路確保に関する体系的リソースの不足にある。本書ではエスマルヒを用いた方法のほかにも、カウンタートラクション法、スネークバイト法、フローティング・テクニック、穿刺針を曲げるなど、従来の情報源ではあまり詳細に触れられてこなかった技術が多数紹介されている。

一方で、海外と日本の臨床事情の違いから翻訳上の調整も必要であった。例えば、海外では大柄な患者が多いためか、推奨される静脈留置針は日本の感覚よりもワンサイズ太いように感じた。このような相違点については適宜訳注を加え、さらに第13章として日本国内事情を踏まえた解説を追加している。

翻訳作業において、前者『Hadzic's 超音波ガイド下末梢神経ブロックと解剖』では、業者による機械翻訳原稿をもとに二人でチェックを行ったが、今回はDeepLの有料版を活用した。有料版の利用により、無料版と比べて一度に翻訳できる文字数の制限がなくなるほか、セキュリティの強化や用語集作成などの機能が追加され、作業効率は昨年よりも向上し経費も節約で

きた。しかし、人の目による校正の重要性は変わらなかった。例えば、bifurcationを「静脈の分岐部」と訳していたが、監訳作業で、静脈血流の方向性を考慮して「静脈の合流部」へ修正した。また、静脈留置針とするか静脈カテーテルとするかは、原語を当てはめるだけでは統一性がとれず、一つ一つ意味を確認しながら訳出した。ほかにも、自然な日本語になるよう、推敲を重ねた。AI技術により生産性は向上したものの、最終的にはエキスパートによるレビューが不可欠である。

『NYSORA 困難静脈路確保マニュアル』は、この領域の初めの体系的な手引きとして大きな意義を有するが、まだ改善の余地も多い。おそらく多くの読者が独自の「ワザ」をお持ちであろう。そこで、『LiSA』では2026年の徹底分析シリーズで「静脈路確保さいこう」という企画を予定している。本書やLiSA誌の企画を契機として、実臨床の静脈路確保技術をさいこう (再考) し、読者の皆さんと一緒に発展させていければ幸いである。

本稿は自力での執筆後にChatGPTによる日本語修正、再度自分のチェック後に投稿している。ChatGPTが気の利いた文章に変換してくれたことに感謝したい。

